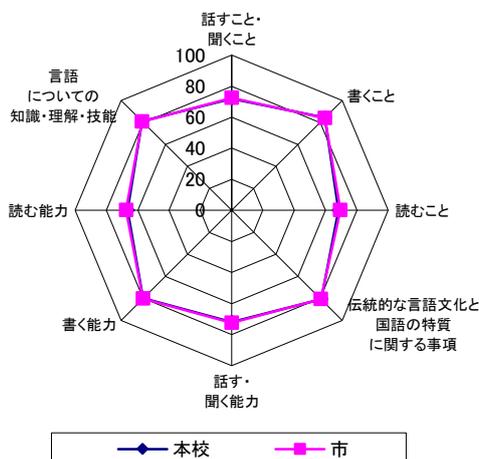


# 宇都宮市立陽西中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	71.9	72.4	70.5
	書くこと	84.2	84.1	70.0
	読むこと	68.3	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.0	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	71.9	72.4	70.5
	書く能力	80.2	80.2	68.0
	読む能力	66.5	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	81.0	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

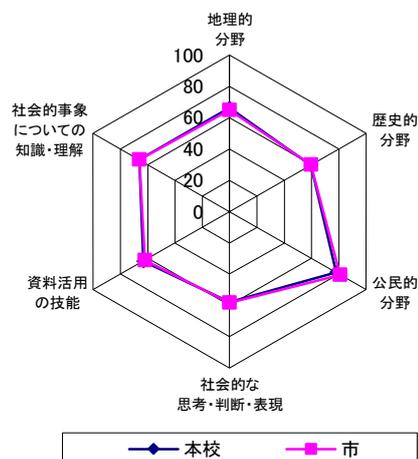
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>市の平均を0.5ポイント下回っている。</p> <p>○条件を踏まえて、発表原稿をどのように改善するのが適切かを尋ねる問いにおいて、市の平均よりも3.2ポイント上回っている。</p> <p>●話の要点を相手にどう伝えるのが適切かを尋ねる問いにおいて、市の平均よりも5.6ポイント下回っている。</p>	<p>・目的に応じて、より分かりやすい話ができるように改善する力に優れている。今後も、様々な状況を踏まえて話すことができるように、「話すこと」に関わる実践的な指導の充実を図る。</p> <p>・話の内容を正確に把握する力に課題がある。話の中心的部分と付加的な部分を聞き分けるための指導の充実を図る。</p>
書くこと	<p>市の平均を0.1ポイント上回っている。</p> <p>○条件に合うように適切に情報を収集して書いているかを評価する問いにおいて、市の平均よりも1.3ポイント上回っている。</p> <p>●正しい段落構成で書いているかを評価する問いにおいて、市の平均よりも5.6ポイント下回っている。</p>	<p>・情報を適切に取り出して評価する力は、書くことのみならず、他の領域にわたっても非常に重要であることから、今後も、目的に応じて適切に情報を取り扱う力が高まるよう指導する。</p> <p>・文章全体の中で、段落が担う役割を意識して書く力に課題がある。段落の役割にはどのようなものがあるかを考えさせることによって、その気づきを自分が書く文章の構成に生かすよう指導する。</p>
読むこと	<p>市の平均を1.2ポイント下回っている。</p> <p>○登場人物の様子を的確に捉える問いにおいて、市の平均よりも2.2ポイント上回っている。</p> <p>●登場人物の人物像を的確に捉える問いにおいて、市の平均よりも6.0ポイント下回っている。</p>	<p>・登場人物の心情の変化が様子の描写にどのような変化を与えるかを、叙述に即して的確に捉える力がある。今後も、登場人物の様子や描写を的確に捉えられるよう、語彙を増やしたり、想像を広げて考えたりする学習場面を設定していく。</p> <p>・登場人物の人物像を推し量ることができる部分を正確に取り出す力に課題がある。文学的文章に登場する人物像を多面的に捉えるために、どんな描写に着目すればよいかに気付かせる指導の充実を図る。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>市の平均を0.2ポイント上回っている。</p> <p>○小学校までの漢字を正確に書く問いにおいて、4問全てにおいて市の平均を上回っている。</p> <p>●敬語の正しい運用を尋ねる問いにおいて、市の平均よりも4.2ポイント下回っている。</p>	<p>・週1回の漢字テストを実施し、年間を通じて継続的に漢字の指導を行ってきたことが奏功した。今後も、漢字を正確に書くための日常的な指導を充実させる。</p> <p>・接頭語を用いた敬語表現の理解が不十分である。敬語表現を単に暗記させるのではなく、実際の運用場面を想定しながら実生活に役立たせることができる言葉の力を付ける指導を充実させる。</p>

# 宇都宮市立陽西中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	66.3	64.8	54.5
	歴史的分野	59.5	59.7	52.2
	公民的分野	78.0	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.9	58.3	49.5
	資料活用の技能	63.3	62.2	53.1
	社会的な事象についての知識・理解	66.1	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

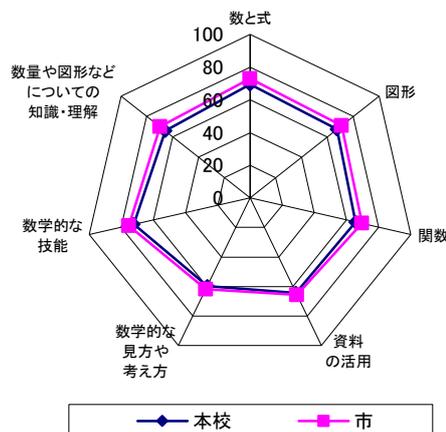
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>平均正答率は、市の平均を1.5ポイント上回っている。</p> <p>○資料活用の技能の問題では、多くの問題で市の正答率を上回った。特に世界地図の特色、世界各国の出生率と死亡率の資料の読み取り問題では、正答率が8割以上だった。</p> <p>●築地松の役割について、社会的な思考・判断・表現を問う問題は、市の平均を4.4ポイント下回り、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から実施している分かる授業を推進するとともに、生徒の興味関心を高める工夫を継続させる。</li> <li>・複数の資料から様々なことを読み取る学習を意図的に行い、資料活用の技能の育成を図る。</li> <li>・地名と位置を確認するため、地図帳を活用していくとともに、作業を通して各自が確認できる時間を確保していく。</li> </ul>
歴史的分野	<p>平均正答率は、市の平均を0.2ポイント下回っている。</p> <p>○江戸時代の全国支配に関する問題では、市の正答率を6.0ポイント上回った。江戸時代の設問は、時代が近いこともあり、比較的理解しやすかったと考えられる。</p> <p>●社会的な思考・判断・表現を問う問題は、市の平均を5.0ポイント下回り、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から実施している適切な課題を設けて行う学習を継続させ、課題を解決していく過程で思考・判断・表現の育成を図る。また、振り返りを実施し、長いスパンで時代の特色を明らかにしていく学習も継続させる。</li> <li>・歴史的な出来事の因果関係を何度も繰り返し学習することで、知識を定着させる。</li> </ul>
公民的分野	<p>平均正答率は、市の平均を2.9ポイント下回っている。</p> <p>○日本の人口分布の特色と課題問題で市の平均を3.7ポイント上回った。</p> <p>●効率と公正の判断基準についての考察を問う問題で、5.2ポイント市の平均を下回り、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出の用語は、その意味を説明するとともに、公民的分野だけでなく、地理的分野や歴史的分野の社会的な事象との関連を明確にしていく。</li> <li>・将来の主権者としての資質能力を育成するために、意思決定する場を学習活動に計画的に位置づけ、実践する。</li> </ul>

# 宇都宮市立陽西中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.5	73.0	67.5
	図形	67.6	71.1	59.5
	関数	65.6	69.7	60.0
	資料の活用	64.4	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	59.7	61.8	49.6
	数学的な技能	72.3	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	65.7	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

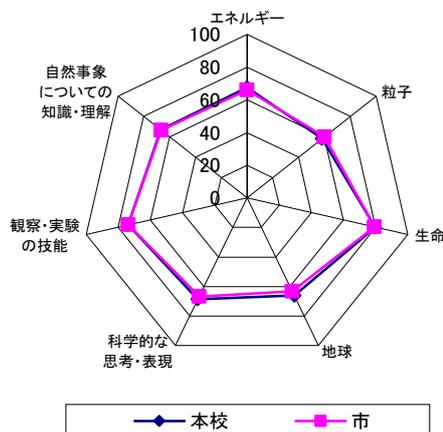
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率はほかの領域より高い。市平均と比較し、3.5ポイント低くなっている。</p> <p>○市平均を下回っているものの、基礎・基本の定着に力を入れて取り組んでいることが徐々に成果として表れてきている。</p> <p>●文章題から方程式をたてることを苦手とする生徒が多く見られた。数量の関係を正しく見極める力をつけることが課題に挙げられる。</p>	<p>・数と式の分野では、基本問題での正答率は高まっているものの、発展問題では正答率が低くなっている。今後は、文章題から立式する過程について丁寧に扱い、数量の関係について異なる文字を使って表すことができるよう、問題に触れる機会を増やし、理解度を高めていく。</p>
図形	<p>市の平均を3.5ポイント下回っている。</p> <p>●平面図形と証明のどちらも市平均を下回っている。特に作図において、問題文を読み取り、必要な作図を考えることが課題に挙げられる。</p>	<p>・図形の分野では、特に作図での正答率が低くなっている。基本的な作図については手順を丁寧に指導しているが、発展問題になると正答率が低くなっている。今後は作図の方法だけでなく、作図したものがもつ性質に触れ、問題から読み取る思考力を高めていく。</p>
関数	<p>市の平均を4.1ポイント下回っている。</p> <p>●1次関数について、式とグラフを関連付けて理解する問題については、7.7ポイント市の平均を下回っている。1組のx、yの値から、関数<math>y=ax^2</math>の式を立式する問題については、市の平均を4.2ポイント下回っている。</p>	<p>・関数分野では、特に式とグラフを関連付ける問題への理解が不十分であった。また、基礎知識をもとに答えを求める発展問題についても正答率が低い。今後は、表・式・グラフの関連についてより詳しく取り扱い、理解を深めていく。また、論理的に考える問題や必要な値を求め、それを活用していく問題にも触れる機会を増やし、思考力や理解度を高めていく。</p>
資料の活用	<p>市の平均を1.2ポイント下回っている。</p> <p>●階級の相対度数を求める式を選ぶ問題については、4.0ポイント市の平均を下回っている。また、4枚のカードから2枚を取り出して2けたの整数をつくるときの確率を求める問題については、3.7ポイント下回っている。</p>	<p>・資料の整理の分野では、特に相対度数についての理解が不十分であった。また、語句の理解や、表やヒストグラムの特徴から傾向を説明する問題についても正答率が低い。今後は表やヒストグラムから相対度数を求める問題の練習の機会を増やしていく。また、語句を使って説明する問題を練習する機会を増やし、思考力や理解力を高めていく。</p>

# 宇都宮市立陽西中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	67.5	66.1	56.4
	粒子	58.1	60.0	57.4
	生命	79.7	79.4	75.2
	地球	66.1	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	68.7	66.8	57.2
	観察・実験の技能	73.9	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	66.8	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

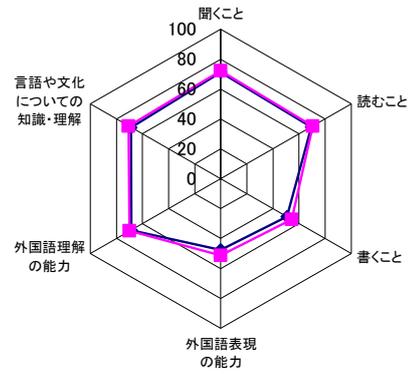
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を1.4ポイント上回っている。</p> <p>○音の性質では、すべての問題で市の正答率を上回った。特に、弦の太さと長さについて、音の高低と振動数との関係では、2.5ポイント上回った。実験を通して、音の高低や大きさについての理解が深まったと考えられる。</p> <p>●電流と磁界では、誘導電流についての理解を問う問題で、2ポイント市の正答率を下回り、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー分野は、実験結果から考察する場面が多いため、時間の確保に努めるとともに、思考・表現する力を高めていく。</li> <li>・計算問題や作図問題に苦手意識を持っている生徒が多い。基本的な練習問題等に時間をかけることで、定着を図っていく。</li> </ul>
粒子	<p>平均正答率は、市の平均を1.9ポイント下回っている。</p> <p>○物質の状態変化では、ガスバーナーの炎を正しく調整する問題において、3.0ポイント上回った。実験での操作を通して、技能が身に付いたと考えられる。</p> <p>●化学変化では、還元の化学変化の例を指摘する問題で、6ポイント強下回っていた。理解が不十分であったと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の化学変化の単元では、実験から導き出される結果について、考察する時間を十分に確保することで、科学的な思考・表現する力や観察・実験の技能を高めていく。</li> <li>・粒子領域では、目に見えないため、モデルやパソコン教材などを使い、視覚に訴えるなど工夫して、定着を図っていく。</li> </ul>
生命	<p>平均正答率は、市の平均を0.3ポイント上回っている。</p> <p>○動物のからだのつくりとはたらきの実験方法についての問題では、1.1ポイント上回った。実験・観察の技能が身に付いていたと考えられる。</p> <p>●生物の成長と生殖では、減数分裂についての理解を問う問題で、2.8ポイント市の正答率を下回り、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命分野では、観察を通して考察し、現象の理解を深めさせていくことを授業の中で取り組んでいく。</li> <li>・刺激を受けてから反応するまでの信号の経路については、刺激を受け取る感覚神経の場所によって違うため、日常生活と関連させながら、理解を深めさせていく。</li> </ul>
地球	<p>平均正答率は、市の平均を3.0ポイント上回っている。</p> <p>○地球領域のすべての問題で、市の正答率より上回った。日本の気象の活用の問題で、台風の進み方について説明することができるなど、理解が深まっていたと考えられる。</p> <p>●市の正答率は上回っているが、科学的な思考・表現の問題において、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の領域については、ある程度定着が図られている。授業の中でも、基本的な用語の確認はもとより、発展的な問題についても取り組んでいく。</li> </ul>

# 宇都宮市立陽西中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.2	72.2	67.8
	読むこと	69.4	70.5	70.4
	書くこと	50.5	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	47.6	51.2	49.2
	外国語理解の能力	68.6	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	68.8	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校 ● 市

## ★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を1.0ポイント下回っている。</p> <p>○ 英文を聞いて、最後の応答に合う英文を選択する問題では、市の平均を0.9ポイント上回っている。</p> <p>● 英文を聞いて、その内容に合う絵や地図を選ぶ問題、時間を正しく聞き取る問題、日本語のメモをもとにして会話文を完成させる問題では、課題が見られる。</p>	<p>・英単語一つ一つの音を確認し、話したり聞き取ったりすることができるよう、授業でリーディングやスピーキングを取り入れる場面を増やしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を1.1ポイント下回っている。</p> <p>○ 対話文の情報を正しく読み取って適語を選択する問題、英文を読んで、文中の最後の応答として適切なものを選択する問題、指示語が表しているものを選択する問題では、それぞれ市の平均を1.8ポイント、3.2ポイント、1.2ポイント上回っている。</p> <p>● 英文を読んで、表が示しているものや空欄に当てはまるものの組み合わせを選択する問題、内容の正誤を問うものでは、課題が見られる。</p>	<p>・本文の大まかなあらすじは理解できており、また、指示語が何を表しているのかも理解できている。短い英文のリーディングを授業でたくさん取り入れることで、内容理解の充実を図っていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を3.8ポイント下回っている。</p> <p>○ 与えられた条件で英作文を書く問題のうち、人物の出身地について表現する問題では、市の平均を0.3ポイント上回っている。</p> <p>● 英単語を正しい順に並べ替える問題、与えられた条件で英作文を書く問題、自分自身について英作文で表現する問題では、課題が見られる。</p>	<p>・並べ替えの問題をワークや授業で繰り返し学習し、基本的な文章の構成の理解につなげていく。</p> <p>・自分自身についての英作文については、特に英語に対して苦手意識を持っている生徒は手つかずのままになることが多い。日々の授業で自分の考えや気持ちを英語にして伝える機会を増やしていくことで苦手意識を払拭させ、表現に幅をもたせる。</p>